

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷恵策 SJ

(第五部 聖地巡礼)

53

第十八幕 第一場

キプロス島 ラス・サリーナスの港にて

1523年10月14日

登場人物: 巡礼者 イニゴ
船長
司祭
ディエゴ・マニェス
フスリ

【語り】イニゴ一行は、エルサレムに心を残しながらもその晩(1523年9月23日深夜)エルサレムを出発しました。ヤッファへの途上、巡礼者たちはベドウィンの一団に襲われ、食料を奪われてしまいました。ラムレではトルコ人たちに3日間飲まず食わずの状態に幽閉されましたが、10月2日にやっとの思いでヤッファに到着し、その翌日キプロス島への船上の人となりました。キプロス島ラス・サリーナスに着いたのは10月14日で、ここで巡礼者たちは別々の船に分乗してヴェネチアに帰ることになりました。

(停泊中の甲板にて)

船長: ラス・サリーナスに着きました。忘れ物がないようご注意ください。

ディエゴ・マニェス: 今聞いたんですが、我々をヴェネチアから連れて来たネグロ
ーナ号はもう出てしまったそうです。

フスリ: 頼りにしていたのに、何ちゅうこっちゃ。

イニゴ: ニヶ月前に皆さんと再会したのはこの港でしたね。我々8人は陸路
ファマアウグスタから30マイル歩いて来て、この船に乗せてもらったので
した。

司祭: そうでした。最後の下り坂は少々きつかったですね！

ディエゴ: イニゴさんのために船を見つけましょう。こんなに聖なる人を、只で乗
せてくれないなんていう船長はいないだろうと思います。

イニゴ: 皆さん、私のことを気遣ってえくださり有難うございます。
今まで通り必ず神様が道を開いて下さいます。

[語り] イニゴのこの全き信頼に応じて聖父なる神は無料で ヴェネチアまで
イニゴを乗せてくれる船を用意して下さいました。11月初旬にヴェネチアへと
船出した3隻の船の中では一番小さかったのですが、イニゴを乗せた船は大き
な困難を乗り越えて、1524年1月半ばヴェネチアに着きました。
航海に要した二か月半にもわたる異常に長い期間を考えると、その試練が並
大抵のものではなかったことがわかります。いくつもの嵐や逆風に遭遇し、冬
の悪天候をさけるため島陰に身を寄せ、何日も留まっていなければならないこ
ともあったことでしょう。

第十八幕 第二場

1524年1月初旬 アプリア(イタリア)にて

登場人物: 巡礼者イニゴ
司祭

イニゴ: 神父様、やっとイタリアの地が見えて来ましたね。

司祭: 二か月半も海の上に居ることになるとは、思ってもみませんでしたね。
キプロスを出た時は秋たけなわで、暖かったけれどこの雪と海風はこたえますね！あなたのその薄着では寒いでしょう。身体に毒ですよ。

イニゴ: この粗布の巡礼服は膝までなので、裸足のくるぶしと、ぬれた靴が冷たいですね。しもやけがくずれてほとんど感覚がありません。

司祭: あなたの服は真夏と真冬向きではありませんね！
イエス様のためにあなたが忍んでいる寒さ、暑さ、そして人々の嘲笑などを通して、ますますイエス様に似たものになっていきますね。

イニゴ: 私たちのためにさげすまれ辱められ鞭打ち打たれ、十字架に架けられたイエス様に比べれば、このくらいの寒さなど物の数ではありません。

司祭: イエス様への熱愛が、あなたにエルサレムに生涯とどまりたいという望みを起こさせたのですね。

イニゴ: はい、おっしゃる通りです。それが叶わなくなった今どうしたらいいのか、神が私に何をおさせになりたいのかを探しております。
神様が私を回心させ救いへの道をお示し下さいましたので、今度は私が少しでもお役に立てればと思っています。ひとりでも多くの人の救霊のために尽くしたいと熱望しております。

司祭: あなたはこれから沢山の魂を救うために働かれるでしょう。

イニゴ: 是非そうさせて頂ければと思います。
そのためには、主キリストや(神(三位一体の神))についてもっともっと知る必要があると思います。

司祭: そうですね。そのためには神学を、そしてその前提となる哲学を学ぶのがいいでしょう。講義や教科書は全てラテン語ですから、ラテン語から始めなければなりませんね。

イニゴ: 33歳になる私が今からラテン語の勉強を始めるとなると難しさも感じますが、より深く神を知り、愛し、キリストにお仕えするためには、どんな困難も乗り越えたいと思います。